

EXPEDITION CLUB

4回生(35代) 山本 靖朗

探検部員で在ることの価値について、時々考えることがある。ここ数年の間に探検部員の数、急激に増したからである。

それぞれの考え方には、多少の差があるだろうが、日常生活からかけはなれた世界で、今しかできない事を行い、今しか過ごせない時間を過ごすと言うことがあるであろう。

我々は、合宿を行い活動を繰り返している者達である。しかも大自然を相手にしてである。大自然に立ち向かい戦いをまともに挑んでも勝ち目はない。しかしながら、大自然に戦いを挑まずして、馴合という形に成り下がったのでは、関西大学内に腐るほど存在するアウトドアサークルと何ら変わらない存在になってしまう。我々は関西大学探検部に所属する部員であるかぎり、そんな風に成り下がってしまってはいけない。

だからといって、無謀なことを行っただけでは組織で物事を行っているという意味がない。それぞれの部員が持っている実力の最高の力を発揮して大自然を相手にし、絶対に負けないと自信をもてるくらいの、合宿を行うべきである。

成り下がってはいけない。

我々は、OUT DOORサークルに属しているのではない。

我々は、関西大学探検部に属しているのである。

